

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」本館		
所在地	大分県大分市大字寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理事長自ら外出を提案し、車の運転を行い四季折々の自然に触れる機会を作っている。また、その際に道の駅等で産地直送の新鮮な野菜や果物を購入し、ホームで加工し提供している。 ・併設している事業所の行事に参加し地域の方との交流を深めている。 ・ふる里訪問でゆったりと穏やかな時間を過ごしていただき、家族から高い評価を頂いている。 ・中庭のテラスで日光浴を兼ねて散歩したりお茶会を開いている。 ・梅干や漬物等入所者と一緒に作り提供している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理事長が率先してドライブ等の外出の機会をできる限り多く持ったり、食堂ホールからは自然が感じられる中庭が望め生花もさりげなく飾られており、季節の移り変わりを五感で感じられるような生活がきている。 ・利用者知識や経験を職員が教わりながら漬物作りをする等している。 ・病院が併設されており、利用者・家族・職員が安心できる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の会議を設け皆で意見を出し合い、全員で実践できているか考察し、向上に努めている。	職員会議で理念の振り返りをする等しながら共有を図っている。また、利用者と近所を散歩する等して地域密着の理念の実践に繋がっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している老健の行事の盆踊り大会・餅つき大会・カラオケなどに参加し地域との交流を深めている。また、近所の美容院にも出かけている。	併設の老健と合同で開催する盆踊りではポスターを掲示する等して情報を発信し、地域の方も参加して交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会長や老人会長から認知症に関する質問などあり、情報を提供している。また、理事長が老人会の会合などに出向き認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的で開催されており、会議では分かりやすくスライドで表し現状報告が十分なされ、また、出席者から意見や要望等を積極的に取り入れサービスの向上に活かしている。	会議は定期的で開催している。また、警察が委員になっており、情勢に応じた事例等の講話をする等の工夫がされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、実状や取り組みを伝えている。また必要に応じて管理者が市役所に出向いたり、電話等で助言などをしてもらっている。	都度必要に応じて事業運営での問い合わせや相談等しながら協働関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出や散歩も職員が付き添い自由に外に出られるような支援を行っており、法人の全体会議にて、職員の共通認識をはかっている。	毎月開催される法人の全体会議で年1・2回定期的にけいゆうを行いながら全職員で周知し、身体拘束のないケアの実践へ繋がっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に皮膚の観察などに注意しており、法人の全体会議にて、職員の共通認識をはかっている。		

事業者名: グループホームふじ乃家(本館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者は現在居ないが、法人の全体会議にて学ぶ機会を持ち、職員の共通認識をはかるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアに対する考え方や取り組みを説明し、また退居時には対応可能な範囲で説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会に参加して頂き、意見や要望を出してもらえるように努めている。また、玄関には意見箱を設置し利用者本位の運営に努めている。	各ユニット毎に年1回家族会を開催しており、意見箱の設置をする等して家族や利用者の要望や意見を聞いており、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議やこまめにスタッフ会議を設け、職員の意見や提案を聞き運営に取り入れている。	毎月開催される法人全体会議とグループホームのスタッフ会議等で職員の意見や提案を聞き、外出の企画等に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や小会議等で代表者が就業規則を説明したり給与の話等をオープンに説明し、向上心を持てるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて国家試験の受験、資格取得やスキルアップの為に法人内外の研修を受けるように促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心として他の同業者(所)への相互訪問を行い、情報交換してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向が直接把握が難しい場合は、家族から本人の考え方等の情報収集し、反映させる。また、本人の思いに向き合い、受け入れられるような関係作りに努めている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは連絡を密に取り、信頼関係を築き、情報確認や現状報告等を行い、また、面会時等に家族の不安や求めていることを理解し、問題解決に努めている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのサービスの利用状況やこれまでの経緯を聞き、当施設を理解してもらい、入居後、環境の変化にスムーズに馴染めるように支援している。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の特性を生かした役割分担を行っている。不安等がある方には時間を掛けて傾聴している。外出の機会を作り、マンツーマンの対応でコミュニケーションが図れる環境作りを行っている。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きの情報を必要に応じて家族へ連絡し協力を求めたり、一緒に解決できる環境を作っている。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人の行事に参加し、地域の方々との交流を深めている。また近所の公園へ散歩に行ったり、馴染みの美容院にも出かけている。		馴染みの美容室の利用や入居してから行事等をおして知り合った地域の方との交流を刷る等している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の声を聞き、テーブルの座席を工夫し、孤立しないように取り組んでいる。また、利用者同士の関わりが難しい場合は、職員が間に入り、支えあえるような支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合は頻回に面会に行き家族との関係を大切に維持している。また、退居時にケアプランや支援状況など情報提供をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情をくみ取り、本人の思いを知り、安心して頂けるような言葉かけを行い、暮らし方に対する希望は、家族の協力も得て、本人本意に生活が出来るように努めている。	利用者からは日常の関わりやアセスメント等で、家族からも情報を聞く等しながら思いや意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居・面会時に家族や本人からこれまでの生活歴や情報などを聞き取り、他部署と連携し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で表情や言動・気付いたことなどに留意し各種チェック表やケース記録に記録を行い、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成担当者が面会時家族、担当者と話し合い意向を聞き取りプランへ反映している。また、スタッフ間の会話や会議時の意見を取り入れ、プラン作成に反映している。	各ユニット毎に職員全員で毎月モニタリングを行い、3カ月や6カ月必要時にケアプランの見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に残すとともに、プランに対してのモニタリングを毎月することで、プラン見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院同行や美容院の付き添いを行っている。		

事業者名: グループホームふじ乃家(本館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の警察や民生委員に参加してもらい、意見の交換をしている。また、好きなサークルの参加や地域の美容院の協力を得ることが出来ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外部受診は、基本的に家族同行の受診となっているが不可能の場合は職員が代行している。また医師の指示で総合病院への医療連携もできており、家族の意向に沿った医療連携体制がある。	専門医や総合病院と連携を図りつつ受診支援を行っており、職員が外部受診支援を行った際は電話等で家族へ結果報告を報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時や排泄の介助、更衣等の際に全身状態を観察し気付いた点は速やかに看護師に報告し、看護師の元で確実な投薬、内服、日常の健康管理の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供し頻回に面会に行くようにしている。また、家族とも情報を交換し速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にレベル低下時や急変時の対応方法を確認し、十分な説明を行い、理解・納得をして頂いている。また、家族会や面会時・電話連絡などで適宜、状態の報告を行い、今後の対応や終末期に対する希望を確認し、結果を職員全員で共有している。	指針に関しての文書を作成しており、契約時に説明をしている。また、家族会でも話を行っている。職員に対しても看取りに関する研修を実施する等しながら方針の共有を図っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、休日の緊急体制連絡は、マニュアルを作成し周知徹底をしている。また、応急手段を法人の勉強会(実技)などで確認している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回利用者と避難訓練を行なっている。また、消防署の協力を得て地域の小学校の運動場で消火器の使い方など定期的に訓練をおこなっている。	年2回避難訓練を実施し、消火器の取り扱いの訓練も行っている。また、食料等の備蓄も確保している。	住宅地の中に立地しているということもあり、工夫しながら地域との協力体制を築いていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や朝の申し送りなどで意識しあい、本人の気持ちを大切に考えさげない声かけなど行い、本人の誇りが傷つくような言葉かけや対応があった場合は職員間で注意しあっている。	常にプライバシー等を意識しながら対応を行っており、気になる事例などがあれば、職員同士で注意しあったり、職員会議や申し送りの際に話し合う等している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、難聴の方には筆談などでどんな些細なことでも本人が決める場面を作っている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の表情や言動をくみ取り、一人ひとりのペースに合わせて寄り添い一緒に過ごすことを大切にしている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容の日を設けお化粧をしたり、近所の美容院に出かけパーマもかけてもらっている。美容の日以外にも本人の希望時には入浴時に顔そり、男性の方には毎日、髭剃りの声掛けを行っている。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事を出来るような雰囲気作りを大切にしている。	朝食とおやつはグループホームで、昼・夕食は隣接する法人で調理している。献立のアンケートを取って朝食に反映させたり、年3回のバイキングでは刺身やすき焼きを刷る等利用者の希望に添う工夫をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェック表に記録し、日々、チェックを行っている。個々の体調に合わせて栄養面や水分補給に努めており、本人の好みに合わせて飲み物を提供する事により、水分摂取の確保に努めている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声かけ・見守りをし、出来ない方に関してはケアを行い肺炎の防止に努めている。拒否のある方には、無理強いをしないで時間を掛けて対応している。			

事業者名: グループホームふじ乃家(本館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べ、その人に合ったオムツを使用し、失敗やオムツを減らすように支援している。	各利用者の排泄パターンを把握しつつ、可能な限りオムツを使用しないケアに繋がっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は繊維の多い食事を摂り水分補給に気をつけ、排便チェック表にて排泄チェックや水分量のチェックを行っている。また、廊下歩行や散歩などの身体を動かす働きかけもしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調に合わせ意向を尊重し、入浴拒否があれば無理強いをしないようにしている。毎日、入浴希望の方は希望に沿って入浴している。	週2回以上入浴しており、希望があれば毎日の入浴も対応している。拒否がある方へも職員で話し合いながら声掛けの工夫をする等しながら対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調、本人の希望や表情からくみ取り、必要に応じてベッド臥床したり、昼夜逆転の方に対しては日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的などの、受診時に医師より指示された事は、申し送りノートやケースに記録し、服薬の指示と症状の変化の確認に努め、確実な投薬を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ等を手伝い、役割を楽しみながら行なえるような支援をしている。また、長年晩酌の習慣のある方に関しては夕食時に提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年一回併設の老健施設との合同バスハイクには全員参加し、参加が可能な家族には同伴してもらっている。また、独自でのドライブにも体調に配慮しながら出かけている。	毎月1・2回はドライブへ出かけており、毎年開催するバスハイクの際は家族も参加している。また、日常的には中庭や近所の公園への散歩や生協への買い物等へ外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預っており、事業所が管理している。外出時に必要に応じて本人に手渡している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望により電話をかけたい時は、併設の老人保健施設にある公衆電話まで付き添う。また、外からかかってきた場合は職員を介して話しやすい雰囲気支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・食堂は照明、色彩、清潔、適切なスペースを配慮し、畳の間には三面鏡を置いて、家庭的な雰囲気を作っている。また、玄関に生花等飾り季節感を取り入れている。	畳の部屋がつながる食堂ホールは季節に応じた生花や飾り付けがされており、自然の移り変わりが感じられる中庭を望むことができ、落ち着いたある雰囲気となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに畳のイスを置き、仲の良い入居者同士がゆっくり過ごすことができ、また、テラスにイス・テーブルを持って行きお茶を飲みながらゆっくり新聞・雑誌を読むことが出来る。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やテレビを置いている。生花が趣味の人は花を生けたりして居心地良く過ごせるように配慮している。	家族の写真や趣味やつかいなれた道具等家族の協力を得たりしながら安心して過ごせる居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でいつでもタンスの整理ができるようにタンスの位置を本人と確認している。また、身体状況に応じて夜間トイレに近い様にベッドの配置を工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101967		
法人名	医療法人 展寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」		
所在地	大分県大分市大字寒田235番地の16		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理事長自ら外出を提案し、車の運転を行い四季折々の自然に触れる機会を作っている。また、その際に道の駅等で産地直送の新鮮な野菜や果物を購入し、ホームで加工し提供している。 ・併設している事業所の行事に参加し地域の方との交流を深めている。 ・ふる里訪問でゆったりと穏やかな時間を過ごしていただき、家族から高い評価を頂いている。 ・中庭のテラスで日光浴を兼ねて散歩したりお茶会を開いている。 ・梅干や漬物等入所者と一緒に作り提供している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【1ユニット目に記載】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の会議を設け皆で意見を出し合い、全員で実践できているか考察し、向上に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設している老健の行事の盆踊り大会・餅つき大会・カラオケなどに参加し地域との交流を深めている。また、近所の美容院にも出かけている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で自治会長や老人会長から認知症に関する質問などあり、情報を提供している。また、理事長が老人会の会合などに出向き認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行われており、会議では分かりやすくスライドで表し現状報告が十分なされ、また、出席者から意見や要望等を積極的に取り入れサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、実状や取り組みを伝えている。また必要に応じて管理者が市役所に出向いたり、電話等で助言などをしてもらっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出や散歩も職員が付き添い自由に外に出られるような支援を行っており、法人の全体会議にて、職員の共通認識をはかっている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に皮膚の観察などに注意しており、法人の全体会議にて、職員の共通認識をはかっている。		

事業者名: グループホームふじ乃家(別館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者は現在居ないが、法人の全体会議にて学ぶ機会を持ち、職員の共通認識をはかるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアに対する考え方や取り組みを説明し、また退居時には対応可能な範囲で説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会に参加して頂き、意見や要望を出してもらえるように努めている。また、玄関には意見箱を設置し利用者本位の運営に努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議やこまめにスタッフ会議を設け、職員の意見や提案を聞き運営に取り入れている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議や小会議等で代表者が就業規則を説明したり給与の話等をオープンに説明し、向上心を持てるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて国家試験の受験、資格取得やスキルアップの為の法人内外の研修を受けるように促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心として他の同業者(所)への相互訪問を行い、情報交換してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向が直接把握が難しい場合は、家族から本人の考え方等の情報収集し、反映させる。また、本人の思いに向き合い、受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは連絡を密に取り、信頼関係を築き、情報確認や現状報告等を行い、また、面会時等に家族の不安や求めていることを理解し、問題解決に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのサービスの利用状況やこれまでの経緯を聞き、当施設を理解してもらい、入居後、環境の変化にスムーズに馴染めるように支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の特性を生かした役割分担を行っている。不安等がある方には時間を掛けて傾聴している。外出の機会を作り、マンツーマンの対応でコミュニケーションが図れる環境作りを行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気付きの情報を必要に応じて家族へ連絡し協力を求めたり、一緒に解決できる環境を作っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人の行事に参加し、地域の方々との交流を深めている。また近所の公園へ散歩に行ったり、馴染みの美容院にも出かけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格等を見極め、座席の工夫等を行い、利用者同士で馴染みの関係が築けるように配慮している。		

事業者名: グループホームふじ乃家(別館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合は頻回に面会に行き家族との関係を大切に維持している。また、退居時にケアプランや支援状況など情報提供をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情をくみ取り、本人の思いを知り、安心して頂けるような言葉かけを行い、暮らし方に対する希望は、家族の協力も得て、本人本意に生活が出来るように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居・面会時に家族や本人からこれまでの生活歴や情報などを聞き取り、他部署と連携し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の家事を一緒に行うことによって能力を把握し、日々の生活に活かす支援に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成担当者が面会時家族、担当者で話し合い意向を聞き取りプランへ反映している。また、スタッフ間の会話や会議時の意見を取り入れ、プラン作成に反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に残すとともに、プランに対してのモニタリングを毎月することで、プラン見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院同行や美容院の付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の警察や民生委員に参加してもらい、意見の交換をしている。また、好きなサークルの参加や地域の美容院の協力を得ることが出来ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外部受診は、基本的に家族同行の受診となっているが不可能の場合は職員が代行している。また医師の指示で総合病院への医療連携もできており、家族の意向に沿った医療連携体制がある。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時や排泄の介助、更衣等の際に全身状態を観察し気付いた点は速やかに看護師に報告し、看護師の元で確実な投薬、内服、日常の健康管理の支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供し頻回に面会に行くようにしている。また、家族とも情報交換し速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にレベル低下時や急変時の対応方法を確認し、十分な説明を行い、理解・納得をして頂いている。また、家族会や面会時・電話連絡などで適宜、状態の報告を行い、今後の対応や終末期に対しての希望を確認し、結果を職員全員で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、休日の緊急体制連絡は、マニュアルを作成し周知徹底をしている。また、応急手段を法人の勉強会(実技)などで確認している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回利用者や避難訓練を行っている。また、消防署の協力を得て地域の小学校の運動場で消火器の使い方など定期的に訓練を行っている。		

事業者名: グループホームふじ乃家(別館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や朝の申し送りなどで意識しあい、本人の気持ちを大切に考えさりげない声かけなど行い、本人の誇りが傷つくような言葉かけや対応があった場合は職員間で注意している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけをし、表情を読み取ったり、些細なことでも本人が決める場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、本人の希望を尋ねたり相談しながら、個別対応に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等は本人の意思で決めており、職員は見守りを行い、支援が必要な時には手伝うようにしている。また、お化粧品を楽しんだり、馴染みの美容院も利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の準備や片づけ等を手伝い、職員と同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるような雰囲気作りをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量が一目で分かるように記録し、日々の状態を把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で出来る方には声かけ・見守りをし、出来ない方に関してはケアを行い利用者の気持ちに配慮し、一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援をしている。		

事業者名: グループホームふじ乃家(別館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子から敏感に察知し、さりげない声かけでトイレでの排泄を促している。また、失敗して下着を直し込んでいる方に関しては、自尊心を傷付けないようにさりげなく見守りを行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物は繊維の多い食事を摂り水分補給に気を付け、排便チェック表にて排泄チェックや水分量のチェックを行っている。また、廊下歩行やラジオ体操・散歩等の身体を動かす働きかけもしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	これまでの生活習慣に合わせて、一人ひとりの気持ちに合わせた支援を行っている。また、拒否があった場合は、無理強いせず本人の意思を尊重している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまで畳での生活習慣があった方に対しては、畳の間で休息を促している。また、心地よく眠りにつけるように日中の活動に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的などの、受診時に医師より指示された事は、申し送りノートやケースに記録し、服薬の指示と症状の変化の確認に努め、確実な投薬を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫・食事の支度・洗濯物干し・たたみ等を手伝い、得意分野で役割を楽しみながら行えるような支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年一回併設の老健施設との合同バスハイクには全員参加し、参加が可能な家族には同伴してもらっている。また、独自でのドライブにも体調に配慮しながら出かけている。		

事業者名: グループホームふじ乃家(別館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かっている方が大半で、外出時には、一人ひとりの能力に応じて支払っている。また、少額を手元に持っていることで安心感や満足感が得られるように配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設している老健にある公衆電話に職員が同行し、いつでも電話がかけられるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・食堂は、照明・色彩・清潔・適切なスペースを配慮し、広い畳の間を設け、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、各所に花を飾り季節感を取り入れている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよい空間にイスを持っていき、外の景色を眺めたり、外気浴を楽しめている。また、気の合った利用者が畳の上で横になり過ごすこともある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具・テレビ等を持ち込み居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンス・床頭台等も自由に整理できるように設置に工夫している。また、ベッドからトイレの動線も安全に使用できるように配慮している。		